

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (A小学校 第6学年 2時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい「『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートの記述や授業の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができましたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は80.9%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は14.3%でした（図1）。また、児童の振り返りシートには、「みんないろいろな『強み』があるから、苦手なことをこく服してほしい」「自分では分からなかった『強み』が分かった。いろいろな人の苦手なことが分かった。友達がいろいろな解決方法を考えてくれたからうれしかった」などの記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたと考えます。一方、

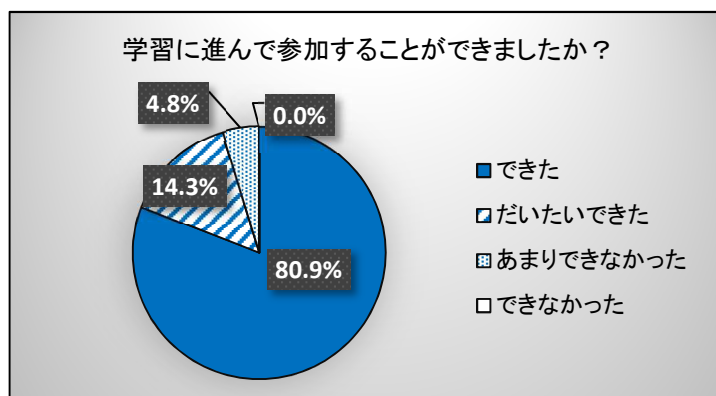


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

の児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたと考えます。一方、

「あまりできなかった」と回答した児童の割合は4.8%でした（前頁図1）。児童の振り返りシートには、「『強み』をちゃんと生活に生かせたらいいと思った」と前向きな記述があり、「ステップ アップ ウェビング」のワークシートにも「短い言葉で言い続けてみる。友達のまねをしてみる」と、自分がやってみたいことやがんばりたいことを書くことができていました。これらの記述と授業中の様子から、交流活動の内容や方法が分かりにくいなどの理由で進んで参加することはできなかったものの、友達と一緒に交流活動に取り組むことができていたと思われます。今後も、このような児童が安心して学習に参加することができるように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は9.6%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「友達から、早起きが苦手なのでどうしたらいいか教えてもらった」「みんながぼくの『強み』について一生けん命に考えて教えてくれたので良かった」等の記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために

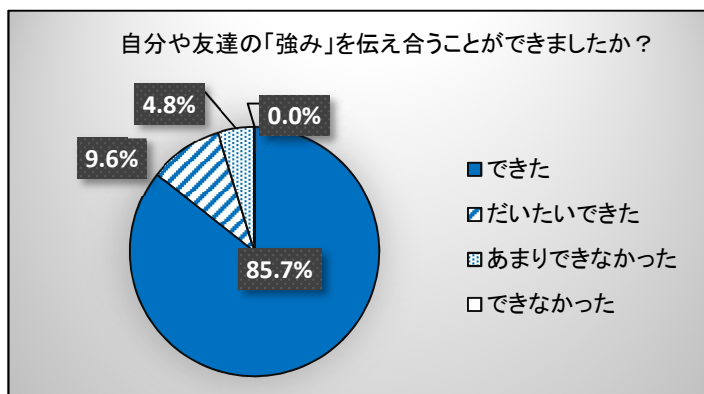


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した児童の割合は4.8%で（図2）、児童の振り返りシートには、伝え合いに関する記述はありませんでしたが、友達のワークシートには、苦手なことを克服するためのアイデアを書くことができていたことから、書字による伝え合いができていたことが分かりました。今後も、このような児童が自分の思いや考えを安心して伝え合うことができるように、伝え合う場面での話型を提示したり個別の言葉掛けをしたりするなどの配慮が必要であると考えます。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は 85.7%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は 9.6%でした（図 3）。また、児童の振り返りシートには、「自分が知らない『強み』を友達が気付いてくれたから『強み』を知ることができた」「みんながぼくの良いところを教えてくれたから、ぼくの『強み』が分かった」等の記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。一方、「あまりできなかった」と回答した児童の割合は 4.8%でした（図 3）。児童の振り返りシートには、自分の「強み」を知ることができたかに関する記述はありませんでしたが、「星☆いくつ」の交流活動で自分の「強み」と思えることを 3つ選ぶことができていたことから、自分の「強み」を意識することはできたと思われます。今後も、このような児童が自分の「強み」を見付けたり友達が見付けてくれた「強み」を受容したりすることができるように、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

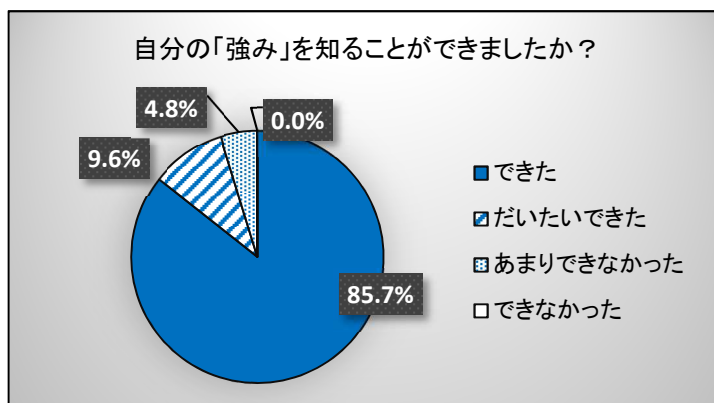


図 3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は 90.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は 9.5%でした（図 4）。また、児童の振り返りシートには、「みんなの意見やみんなの『強み』が分かった」「みんな良いところがいろいろあった。みんなの『強み』が知れたから、それを生かしてほしい」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

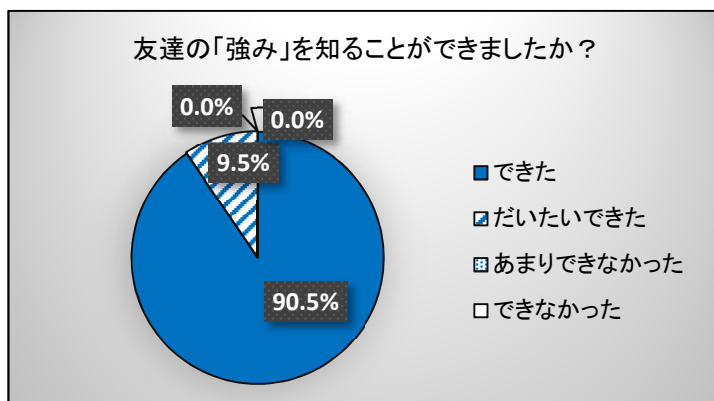


図 4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合は61.9%で、「だいたい思った」と回答した児童の割合は28.6%でした（図5）。また、児童の振り返りシートには『強み』を生かしているいろいろなことに挑戦して、苦手なことを得意にしたい」「自分の『強み』が生かそうで良かった。ゲームが止められないので、時間を決めたい」などの記述が見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分の

「強み」を生かすことができると思うことができたと考えます。一方、「あまり思わなかった」と回答した児童の割合は9.5%でした（図5）。児童の振り返りシートの記述には、「自分と同じことで困っている人にはアイデアを教えにくかった」とあり、「ステップ アップ ウェビング」のワークシートの記述を見ると、「強み」を生かした解決策を考えることができていませんでした。これらのことから、「強み」を生かしてアイデアを考えることに難しさを感じていると推測されます。今後も、このような児童が安心して活動することができるように、具体例を挙げながら平易な言葉で説明をしたり、個別の言葉掛けをしたりするなどの配慮が必要であると考えます。

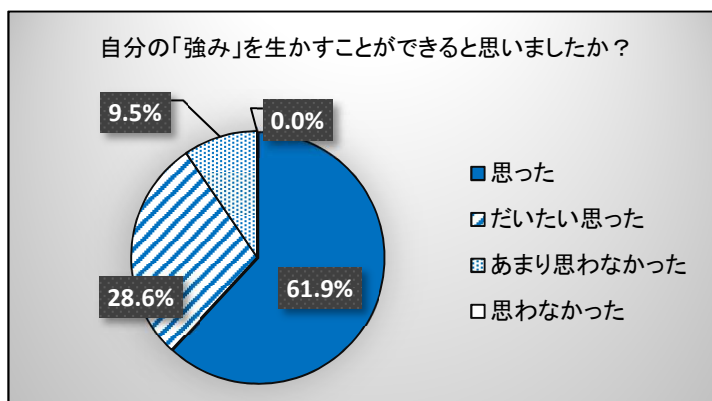


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、ほとんどの児童は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を伝え合うことにより、自分の「強み」を生かすことができると思ったことが分かりました。一方、「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「あまり思わなかった」と回答した児童の割合は9.5%で、「思った」と回答した児童の割合も61.9%にとどまりました。その理由として、質問項目にある「自分の『強み』」を、「自分自身の『強み』」ではなく、「友達もつ『強み』」と誤って捉えていたことや、「強み」の生かし方が分かりにくかったことなどが考えられます。これらのことから、児童の発達段階に合わせて、「強み」を生かした解決策の考え方を平易な言葉で具体的に説明する必要があったと考えます。今後も、児童の実態に応じた指導の工夫をしながら、様々な教育活動と関連付けて、自分や友達の「強み」を知ったり、「強み」の生かし方を考えたりすることができるような取組を継続していく必要があると考えます。

2 研究の実際 > (2) 「強み」に関する活動プログラム

オ 「強み」に関する活動プログラムの実践 授業の考察 (B小学校 第6学年 2時目)

◆本時の考察の視点

本時のねらい『強み』に着目した交流活動を通して、自分や友達の『強み』を見付け、『強み』の生かし方を考えることができるようにする」を達成することができたかを、振り返りシートの結果と記述から考察します。考察の視点は、以下のとおりです。

なお、ワークシートや授業中の様子等も参考にしています。

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問で、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたり「強み」の生かし方を考えようとしたかを考察します。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問で、自分や友達の「強み」を知ったり「強み」の生かし方を考えたりするために、自他の「強み」を伝え合うことができたかを考察します。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができたか」の質問で、自分の「強み」を知ることができたかを考察します。

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができたか」の質問で、友達の「強み」を知ることができたかを考察します。

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問で、自分の「強み」の生かし方を考えることができたかを考察します。

◆本時の考察（「振り返りシート」の結果と記述から）

【① 学習に進んで参加することができたか】

振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は89.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は10.5%でした（図1）。また、児童の振り返りシートには、「グループの人は、ぼくの『強み』を分かっているんだなあと思った。そして、とてもうれしかったので、もっと『強み』を増やしたい」「一人一人に絶対『強み』はあるから、同じグループの人と『強み』を伝え合えて良かった。またやってみたい」などの記述が見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップアップ ウェビング」の交流活動等に進んで参加し、意欲的に自分や友達の「強み」を知ろうとしたと考えます。今後も、児童が進んで学習に参加することができ

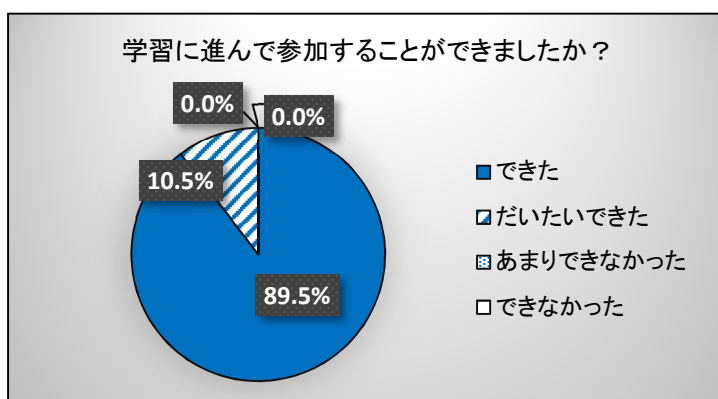


図1 学習に進んで参加することができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

るように、グルーピングや座席配置、個別の言葉掛け等の配慮が必要であると考えます。

【② 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたか】

振り返りシートの「自分や友達の『強み』を伝え合うことができたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は89.5%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は10.5%でした（図2）。また、児童の振り返りシートには、「私が自分でやっていることやおすすめを友達のウェビングに書いて伝えたら、参考にしてくれたのでうれしかった。自分が困っていることの解決方法も分かった」「自分の『強み』を生かして困っていることを解決する方法を見付けることができて、友達にアドバイスをすることもできて良かった」等の記述が見られました。

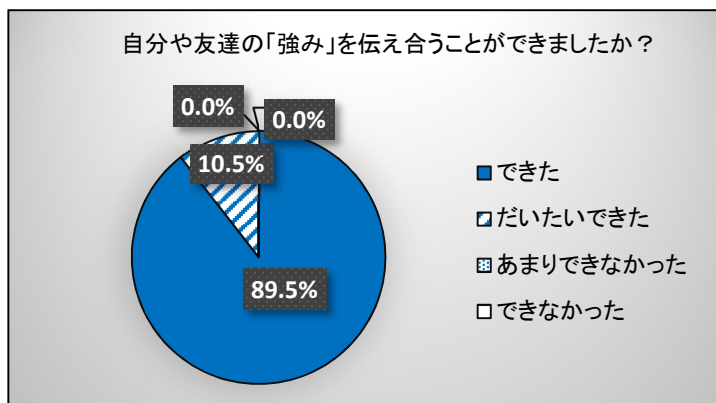


図2 自分や友達の「強み」を伝え合うことができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分や友達の「強み」を知るために自他の「強み」を伝え合うことができたと考えます。

【③ 自分の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「自分の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は86.8%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は13.2%でした（図3）。また、児童の振り返りシートには、「自分には分からないけれど人から見たら結構たくさんの『強み』があることが分かった」「友達から自分が気付かなかった『強み』を見付けてもらえて、自分にはこんな『強み』があるんだなと思った」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分の「強み」を知ることができたと考えます。

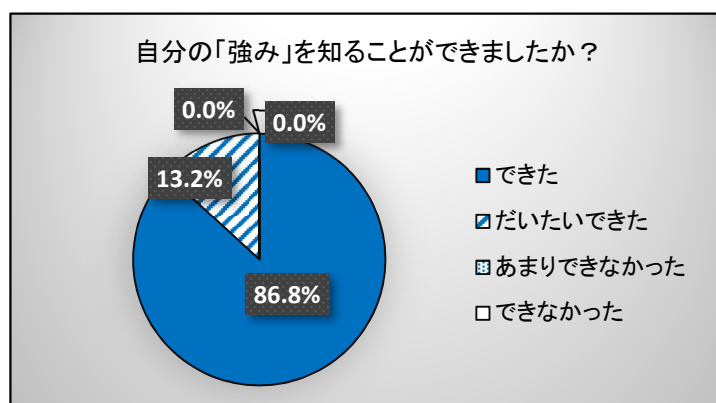


図3 自分の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【④ 友達の「強み」を知ることができたか】

振り返りシートの「友達の『強み』を知ることができましたか」の質問に対して、「できた」と回答した児童の割合は92.1%、「だいたいできた」と回答した児童の割合は7.9%でした（図4）。また、児童の振り返りシートには、「友達の『強み』を知った。友達の困っていることを解決する方法を考えたので使ってくれたらいいなと思った」「みんなの『強み』を知ることができたので良かった」という記述が多く見られました。これらのことから、児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、友達の「強み」を知ることができたと考えます。

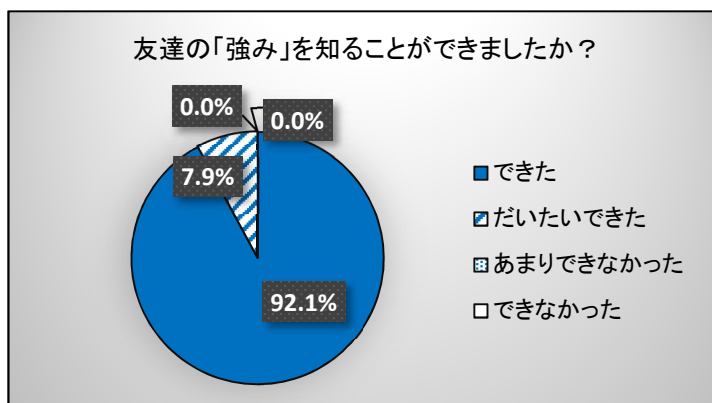


図4 友達の「強み」を知ることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

【⑤ 自分の「強み」を生かすことができると思ったか】

振り返りシートの「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思った」と回答した児童の割合は52.6%で、「だいたい思った」と回答した児童の割合は42.1%でした（図5）。また、振り返りシートには、「私の『強み』を使ったアイデアをたくさん考えてくれたので取り組みやすいなと思った」「自分の『強み』を生かしてもっとがんばりたいと思った。友達のアイデアを試してみようと思った」という記述が複数見られました。これらのことから、ほとんどの児童は「星☆いくつ」や「ステップ アップ ウェビング」の交流活動等を通して、自分の「強み」を生かすことができると思うことができたと考えます。一方、「思わなかった」と回答した児童の割合は5.3%で（図5）、児童の振り返りシートには、「自分の『強み』がいっぱいあるんだなと思った。この『強み』を生かしたい」と記述してありました。このことから、「強み」を生かしたいという思いはもっているものの、実際に生かすことは難しいと感じているのではないかと推測されます。今後も、このような児童が安心して活動することができるように、具体例を挙げながら平易な言葉で説明をしたり、個別の言葉掛けをしたりするなどの配慮が必要であると考えます。

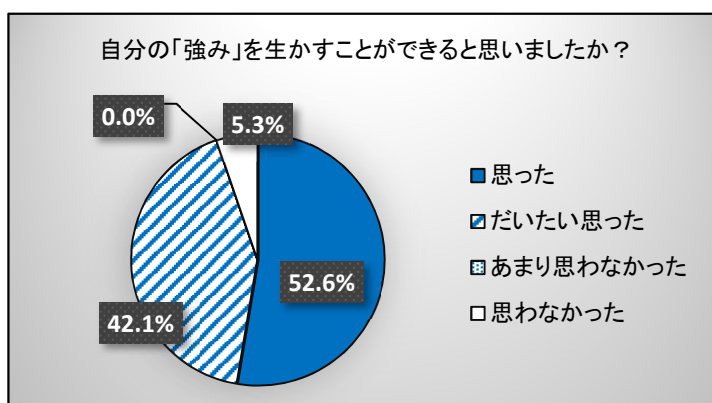


図5 自分の「強み」を生かすことができると思ったかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

以上の結果より、2時目の授業において、ほとんどの児童は意欲的に授業に参加し、自分や友達の「強み」を伝え合うことにより、自分の『強み』を生かすことができると思ったことが分かりました。一方、「自分の『強み』を生かすことができると思いましたか」の質問に対して、「思わなかった」と回答した児

童の割合が5.3%で、「思った」と回答した児童の割合も52.6%にとどまりました。その理由として、質問項目にある「自分の『強み』」を、「自分自身の『強み』」ではなく、「友達がもつ『強み』」と誤って捉えていたことや、「強み」の生かし方が分かりにくかったことなどが考えられます。これらのことから、児童の発達段階に合わせて、「強み」を生かした解決策の考え方を平易な言葉で具体的に説明する必要があると考えます。今後も、児童の実態に応じた指導の工夫をしながら、様々な教育活動と関連付けて、自分や友達の「強み」を知ったり、「強み」の生かし方を考えたりすることができるような取組を継続していく必要があると考えます。